

令和5年8月22日 教育委員会会議録

- 1 日 時 令和5年8月22日（火） 午後3時～午後3時43分
- 2 場 所 10階 委員会開催室
- 3 出席委員 金沢智也教育長、白鳥樹一郎委員、中村篤委員、細谷真紀子委員、伊藤洋子委員
- 4 出席者 高橋一実教育部長、大沼裕子次長（兼）教育企画課長、横山いずみ教育総務課長、
細谷直樹次長（兼）学校教育課長、佐藤哲也社会教育青少年課長、
小関仁美少年自然の家所長、阿部宏図書館長、
斎藤浩之学校給食センター所長兼栄養管理室長、
志済直史商業高等学校事務長、馬場賢総合学習センター所長、
事務局（教育企画課及び教育総務課職員）

会議次第

- 1 開 会
- 2 会議録署名委員の指名
- 3 議 案
議案第31号 令和6年度小学校使用教科用図書の採択について
(知的障がい教育：生活)
- 4 報 告 事 項
 - (1) 令和5年度全国学力・学習状況調査結果の概要について
 - (2) 令和4年度山形市立南沼原小学校校舎等改築事業維持管理運営事業のモニタリングの結果について
 - (3) 小・中学校における熱中症事故の防止について
- 5 そ の 他
- 6 日 程 等
 - (1) 教育委員会の日程について
 - (2) 教育委員会主催（共催）の行事予定について
- 7 閉 会

会議録

1 開 会 教育長

2 会議録署名委員の指名

教育長…本日の会議録の署名委員は、白鳥委員にお願いしたい。

3 議 案

教育長…はじめに、議案第31号「令和6年度使用教科用図書の採択について（知的障がい教育：生活）」説明をお願いします。

<学校教育課長より説明>

教育長…ただ今の説明について、意見や質問等はあるか。

<各委員より「なし」の声>

教育長…それでは、議案第31号について、原案のとおり承認してよろしいか。

<各委員より「はい」の声>

<原案のとおり承認>

4 報告事項

教育長…それでは報告事項に移る。「(1) 令和5年度全国学力・学習状況調査結果の概要について」説明をお願いします。

<学校教育課長より説明>

教育長…ただ今の説明について、意見や質問等はあるか。

白鳥委員…小学校・中学校共に全国平均を上回っているのは素晴らしいことである。ただ、新聞報道等による正答率の高いところと比べると小学校算数で約4%、中学校英語で約6%の開きがある。「上位を狙っていく」という意味ではなく、「児童生徒にしっかりと学ぶ力をつける」という意味から、指導方法を工夫していく必要がある。

ると感じた。今回は、中学校の英語の問題に挑戦してみた。気づいたことを述べる。「聞くこと」・「読むこと」・「書くこと」については分かりやすい問題だと感じた。説明で話されている英語も聞き取りやすかった。しかし、自分の考えを英文で書き表す問題は難しいと感じた。「話すこと」については、多くの課題があると感じた。タブレット端末で問題を聞き、回答を録音する形だったと思うが、こうしたやり方に慣れていない生徒がほとんどだったのではないかと感じた。問題の大項目1に4つの問いがあり、うち3つは「何を聞かれているか理解した上で、7秒で答える」という瞬発力のいる問題だった。残りの1つは「外国から来た人へ子供へのお土産を何にするかについて自分の考えを20秒で話す」問題があった。自分の考えをまとめ、それを英文に直し、話すということでハードルが高い問題だと感じた。大項目2では、「プラスチックバックを使わないようにしよう」という課題に対し自分の考えを1分間でまとめ、30秒で話す」問題だった。これは、考えを1分間でまとめるだけでも大変であり、その考えを30秒の英語で話すことはとても難しいと感じる。「話すこと」については、全国で4万2千人を対象とし、結果を公表しているが、正答率が12%、0点が6割という結果だった。問題が難しくすぎたこともあるが、自分の考えを英語で伝える経験を増やしていかなければならないのだと感じた。テストの「ねらい」には、「即興で伝え合う」「説明を聞いて、考えやその理由を話す」とあり、これからの英語の授業の中で意識しながら指導していく必要があるのではないかと感じた。

学校教育課長…英語については、他教科に比べ問題の正答率が低いことから、問題の妥当性等についても、様々な場面で話題になってくるのではと考えている。また、本当に身につけなければいけない力を我々も吟味していきたい。国がどのような方向性なのかも注視していきたい。

中村委員…先日、県立高等学校の校長先生と話しをする機会があった。「県内進学校の課題となっているのが英語である」という話題だった。県内の進学校の平均点でも、首都圏の普通科より低いという現状である。英語については、先ほど白鳥委員からもあったが、英語で表現できる力というのは1番だと思う。しかし、大学受験を見ると長文読解もある。国語では読書をし、長文を読む習慣があるが、英語ではそのような機会はない。その部分も今後考えていかなければならないのではないかと感じた。

学校教育課長…以前から山形県の大きな課題の1つに英語教育があげられている。英語については、高校・中学校ともに全国と比べると低い傾向である。前回は山形市も全国平均を下回っていたが、今回は先生方の頑張りもあり全国平均より少し良くなった。これを続けていければと思う。

教育長…山形県のセンター試験・大学入学共通テストの結果などを見ていると、平均以下であることの方が多い。国語は上位5位以内に入ったこともあるが、数学・英語の順位が

低いことが以前から続いている。英語力を高めるような社会的な資源が山形県には少ない面もあるとは思いますが、学校として力を高めていく指導を行っていくことが大切であると考えている。

伊藤委員…学校訪問の際、英語の授業を見て感じたことがある。タブレット等でネイティブの発音で教科書は発音されているのに、児童生徒は日本語の発音で英語を読んでしまっている。それがもったいないと感じた。聞く・話すことの指導方法について考えられないのか。また、英語で答えるときは英語で考えると思うが、日本語で考えて英語に直すと遅くなってしまう。読む・書くことを一生懸命にやることで、自由度を下げているようにも見える。以上のことについて、現在の学校教育はどのようになっているのか伺いたい。

学校教育課長…難しい課題だと思う。まず、中学校の出口には高校入試がある。英語をネイティブで発音するというものについては、高校入試にはつながっていない。読む・書くことを優先しなければ高校入試に対応できない現状がある。国全体として、話すことも大学センター試験に入れようという話があがり、たくさんの事情が重なっている。話す力は必要だということは認識しているため、先生方に情報共有を行っていかねばならないと考えている。また、段階的に英語が分かって話せるようになっていくと、最初は英語を聞いて日本語に訳し日本語で考え、英語に訳するというのが、日本語に変換する部分がなくなり、段階的に発達していく。小さいころから英語に慣れ親しんでいると、その段階がなく、日本語に置き換えるというところがなくなるが、まだ山形県ではそのような環境にない。その段階を抜け出すと、英語で考えられるようになるので、頑張らないといけないと改めて認識した。

細谷委員…県内の他市町村で英語検定を受験するのに補助金を出すというような支援を行っているが、山形市ではどうか。また、英検の受験率は学力テストの得点が高いというような傾向はあるのか。

学校教育課長…県内他市町村では、英語検定に補助金を出している自治体もあると認識している。受験率に伴う英語の成績がいいのかという質問については、他市町村の学力結果のデータを得ることはできないため、受験率との傾向については回答が難しい。

教育長…次に「（２）令和４年度山形市立南沼原小学校校舎等改築事業維持管理運営事業のモニタリングの結果について」説明をお願いします。

<教育企画課長より説明>

教育長…ただ今の説明について、意見や質問等はあるか。

<各委員より「なし」の声>

教育長…次に「(3)小・中学校における熱中症事故の防止について」説明をお願いします。

<学校教育課長より説明>

教育長…ただ今の説明について、意見や質問等はあるか。

細谷委員…各小学校・中学校・高校の中で、WBGT（熱中症指数）値の計測器を判断する際はどのような機器や設備を用いて測っているか。

学校教育課長…平成30年度の猛暑の際に、WBGT値の計測器を最低一台は確保し、活動の前にはWBGT値を測るよう通知を出している。学校については、夏場この数値を確認してから活動している。8月上旬に、WBGT値の計測値の数について調査をしており、全ての学校に配備されていることを確認している。

細谷委員…運動のことを考えた際に、体育館などへの設置はされているか。

学校教育課長…WBGT値の計測器において定期的に活動前、体育館・グラウンドで測定するようお願いしている。学校では、養護教諭等が定期的に体育館やグラウンドへ測定に行っているところがほとんどだと認識している。

細谷委員…部活動を鑑みた際、外部の施設を借りて部活動を行うとき学校と同じような対応が取れているかの確認は教育委員会で把握しているか。

学校教育課長…学校外の施設を利用した活動については、こちらでは把握していない。各施設で、WBGT値を測定して使用するよう、通知は出されていると思うが、各学校に情報確認を行いたい。

中村委員…今日（8月22日）のニュースで、山形市立第七小学校の始業式の様子が放送されていた。校長先生が全校生徒を集めるには体育館は危険だと指数を測定し判断をし、冷房の効いた教室にてテレビ放送で始業式を行っていた。これから運動会等、各種行事があると思うが、まだまだ残暑も厳しい中となるため配慮が必要となると思う。

伊藤委員…部活動以外、例えば保護者会主催での活動を中学校では行っていると思うが、昼間そのような活動を行うか否かの判断は誰が行っているのか。

学校教育課長…休日の体育館は、小学校は社会体育に貸出しているが、中学校は休日の日中は部活動があるため社会体育に貸出しを行っていない。地区の運動会など特別な事情以外は部活動のみの使用となっている。

伊藤委員…「山形市立小・中学校熱中症事故の防止について」の通知内に「気温35℃以上、または熱中症指数(WBGT)31℃以上の時間帯は原則として屋外活動や運動活動を行わない。」とある。「原則」以外についてはどのようなものが考えられるのか。

学校教育課長…「原則」以外については、東北大会や全国大会等の、大会前に身体を全く動かさずに大会に臨むことになるなどの問題をなくすために「原則」と表記している。

伊藤委員…山形県内他学校で、東北大会に向けて練習を全く行わないわけにはいかないが、練習を行うか否かは顧問の先生が判断してほしいというような事例があったようである。山形市教育委員会ではどのように判断決定をしているのか。

学校教育課長…山形市教育委員会としては、最終的には校長先生が判断してくださいとお願いしている。そのため、最終的には校長先生が判断しているものだと考えている。

教育長…これから運動会のシーズンに入ってくるが、残暑が厳しい。学校教育課が中心となって各学校に注意喚起し、無事故となるよう、児童生徒の安全を確保しながら様々な活動を進めて欲しい。

5 その他

教育長…委員よりその他意見や質問等はないか。

<各委員より「なし」の声>

教育長…事務局よりその他報告等はないか。

<事務局より「なし」の声>

6 日程等

7 閉会 教育長